SON-DAY, SEPTEMBER 13th 2026 WORSHIP SERVICE No.1182
単立キリスト教会 マラナサ・グレイス・フェローシップ Maranatha Grace Fellowship【MGF】Since Jan. 18, 2004
教会所在地：〒380-0802 長野市上松２丁目７−２０ ☎: 026-219-2388 牧仕：Kaz、菊地 一徳（かずなり）
https://mgfchrist.com www.facebook.com/mgf.nagano.japan jesus-mail@mgfchrist.com

MGF は、神第一主義、キリスト中心主義、聖霊主導主義の教会

礼拝黙想 Meditating on Worship

「『死』が信仰者にできることと言えば、その人をイエスのもとへ送り届けることだけだ。」（チャーリー・カーク）

A 今も響く声

1 億人が見守る中行われた追悼式。チャーリー・カークの生涯と死は、キリストへの渇望を再び呼び起こし、聖書の売り上げ急増という形でその反響が表れました。

2025 年 9 月に行われたチャーリー・カークの追悼式で、妻のエリカは、夫を殺害した犯人を赦すと語り、世界に衝撃を与えました。「彼は、自分の命を奪ったあの若者のような青年たちを救いたいと願っていました。あの若者を……。十字架の上で、私たちの救い主は言われました。『父よ、彼らをお赦しください。彼らは何をしているのか分かっていないのです』と。私が彼を赦すのは、それがキリストのなされたことであり、チャーリーならそうするであろうことだからです」

ユタ・バレー大学で開催された「ターニング・ポイント USA（TPUSA）」のイベントで命を落とす直前、チャーリーは熱心な大勢の聴衆に帽子を無料で配り、楽しんでいました。

「これからどうするの？」――9 月 10 日にチャーリー・カークが暗殺された翌日、ケン・グレイブスの娘ジェシカは父にそう尋ねました。メイン州バンゴーにあるカルバリー・チャペルの主任牧師であるケンは、前夜、会衆と共に悲しみに暮れていました。その日の午後、ユタ・バレー大学の屋外で聴衆に向けて語っていた「ターニング・ポイント USA（TPUSA）」の創設者（当時 31 歳）が殺害されたというニュースを聞いたからです。

「どうするって、どういうことだい？」と彼は答えました。あまりの喪失感に、まだ呆然としていたのです。「心の中でこう思っていたんだ。『私は、自分が召されていると信じることを行っている。弟子を作り、男性を訓練し、教会開拓のために送り出し、牧師たちに説教をしている。これ以上、何をしろというのか？』と」。ケンはその問いかけに、胸を突かれるような思いがしました。

屋外で、暗殺者の銃弾に倒れる直前、チャーリーは福音を語っていました。

「好意的な聴衆に向かって私のように大胆に説教するのは簡単です。ここでは環境をコントロールできますから」と彼は振り返っていました。長年にわたり、チャーリーは大学のキャンパスで、政治や社会問題について、しばしば敵対的な若者たちと「真理」と「恵み」をもって対話を続けてきました。危険に直面しても、彼は常に福音に焦点を合わせ続けていたのです。その危険はついに暗殺者の銃弾という形で現実のものとなり、妻のエリカと二人の幼い子供たちが後に残されました。

「私は心を打たれました（確信を抱かされました）」――その次の日曜日、ケンは教会で感情を込めてそう告白しました。「チャーリー・カークは、私たちがこれまでの人生で目にした中で、最も勇敢な心と鋭い知性を持つ人物だと私は思っています。彼はもういません。私たち牧師を含め、誰もがチャーリーに語らせ、批判の矢面に立たせておくのはあまりに安易なことでした。私たちは少しばかり安全な場所に安住しすぎていたのです。何か行動を起こさなければ。変わらなければなりません」。チャーリーからバトンを受け継いだ彼は、ソーシャルメディアやマスメディアの世界でより大きな存在感を示すべく、自身と教会を挙げて取り組むことを公言しました。その結果、教会の施設拡張計画の優先順位は下げられることになりました。

チャーリーの早すぎる殉教は、米国全土、さらには世界中で霊的かつ文化的な目覚めを引き起こしました。自由、正義、そして個人の責任について恐れることなく大胆に証しをした彼の姿に、10 代や若者たちが心を動かされ、変えられたのです。そして彼らは、親や年長者たち（カルバリー・チャペルに関わる多くの人々を含む）を、この目覚めへと導いています。数人のカルバリー・チャペルの牧師やその妻たちは、子供たちに「紹介」されるまでチャーリーについてよく知らなかったと、苦笑交じりに認めています。

予期せぬ波紋
チャーリーの追悼式には、推定 27 万 5000 人が現地（会場内および会場外）で参列し、世界中で 1 億人もの人々がオンラインで視聴した可能性があります。米国の正副大統領や閣僚を含む著名なキリスト教指導者や政府高官といった「各界の重鎮」たちが（その多くが福音を語りつつ）、一般の米国市民と共にチャーリーの生涯と遺産に敬意を表しました。エリカがチャーリーの殺害犯を公の場で赦したことは世界に衝撃を与え、自らの行動で多くの人々に同じように許すよう促すことになりました。彼女はその日、夫の死がもたらす波紋の大きさを犯人は全く理解していないのだと諭しました。

「実のところ、死が近づくにつれて、彼の関心は政治よりもイエスへと向かっていったのです」― ミシェル・ランドール

米国やその他の国々で大小さまざまな追悼集会が開かれ、記録的な数の人々が集まりました。チャーリーが与えた影響についての証しを共有するソーシャルメディア上でのやり取りが爆発的に広がっており、特に彼の使命を受け継ぐ若者たちの間でその動きが活発になっています。投稿には、中絶を選ばない決断をした人々、初めて聖書を購入した人々、教会に復帰した（あるいは初めて教会に足を運んだ）人々、有権者登録をした人々、そして自身の保守的あるいはキリスト教的な信念を擁護することへの恐れを克服した人々の姿が綴られていました。

「まことに、まことに、あなたがたに言います。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。」（ヨハネの福音書 12 章 24 節）

TPUSA の活動は力強く続いています。9 月 10 日以降、支部設立の要望は最大 70 倍に急増し、「TPUSA Faith」に参加する教会数も過去最多を記録しました。エリカは夫の跡を継ぎ、CEO に就任しました。

書籍販売調査会社である Circana BookScan の報告によると、9 月の聖書の販売部数は、前年同月（2024 年 9 月）と比較して 36%増加しました。2025 年 9 月の聖書販売数は約 240 万部となり、8 月の 150 万部から増加しています。

カリフォルニア州サンクレメンテにある「カルバリー・サウス OC（Calvary South OC）」の主任牧師ジョン・ランドールは、次のように感嘆の声を上げています。「チャーリーの殉教以来、彼が懸命に働きかけた世代の間で『目覚め』が起きています。チャーリーが伝えた真理のメッセージは大きく広がりました。何千人もの人々が教会に押し寄せ、聖書を読み、キリストのもとへと集っています。若者たちが立ち上がり、真理のために立ち、キリストのために生き、かつてチャーリーが高く掲げた松明（たいまつ）を自ら引き継ぐことを恥じようとはしません。彼の生涯は短く断たれてしまいましたが、彼が残した影響は静かな湖面に広がる波紋のように広がり続け、彼自身が想像もしなかったほど遠くまで届いています。彼の遺したものは、今も

生き続けているのです。」

勇気ある行動へと世代を呼びかける
「あなたは、年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。むしろ、ことば、態度、愛、信仰、純潔において信者の模範となりなさい。」（テモテへの手紙第一 4 章 12 節）

カルバリー・チャペルの牧師たちの中には、チャーリーを最初のキリスト教殉教者ステパノになぞらえたり、多くの「ヨシュア」たちに模範を示すモーセのような存在だと評したりする者もいます。小学 5 年生で救いを受けた彼は、わずか 18 歳で大学を中退し、予想をはるかに超える規模へと成長することになる保守派の若者運動を大胆に立ち上げました。大学のキャンパスで彼が開催した人気のテント・イベント「Prove Me Wrong（間違いを証明してみろ）」には多くの学生が集まり、そこで彼は、自分と意見の異なる人々と敬意を保ちつつも毅然とした態度で議論を交わしました。

エリカ・カークは最近、大学生の聴衆に向かってこう語りかけました。「彼は皆さんに、自ら考えるよう促したかったのです……。どんな信念を持っていようと、単に教授や友人に言われたからという理由で口にしているのではなく、なぜその信念を抱いているのかを本当に理解してほしかったのです」。彼女は TPUSA のイベントに集まった聴衆を「勇気ある世代」と呼び、さらにこう付け加えました。「チャーリーの殺害は、私たちが暗闇の中にいて、死が勝利を収めたかのように見えるかもしれません……。しかし、真理の光がこれほど明るく輝いていることの証拠は、皆さん自身なのです。主は、勇気を持って立ち上がるよう皆さんに呼びかけておられます……。皆さんの姿は、他の誰かが同じように行動する励みとなるでしょう」。

カリフォルニア州サンノゼにあるカルバリー・チャペル・サンノゼの主任牧師マイク・マクルーアは、チャーリーが若者たちによくこう語っていたと述べています。「ソファから立ち上がりなさい。神に心を捧げなさい。偉大なことを成し遂げなさい。努力して勝ち取り、働きなさい。結婚しなさい。経済的に余裕がある以上の数の子供をもうけなさい。神のために偉大なことをしなさい」。

チャーリーは、TPUSA で重要な役割を担う多くの若者を登用しました。その一人である当時 18 歳のマイキー・マッコイは、最終的に彼のチーフ・オブ・スタッフ（参謀長）を務めることになりました。カリフォルニア州ニューベリー・パークにあるゴッドスピーク・カルバリー・チャペルの創設者ロブ・マッコイの息子であるマイキーは、コリント人への手紙第一 11 章 1 節の「私がキリストに倣う者であるように、あなたがたも私に倣う者でありなさい」という言葉を引用し、こう語りました。「チャーリーはまさにそうしていました。彼もまたキリストに従っていたからこそ、私たちは彼に倣うのです。この遺産をこれからも受け継いでいきましょう」。 2020 年にチャーリーと出会ったジョン・ランドール牧師は、彼に深い感銘を受けました。「この若者は、ある世代を目覚めさせ、真理へと導くことに極めて献身的で、強い意欲を持っていました。彼の情熱は周囲の人々をも突き動かすものでした。彼が抱いていた類まれな大胆さは、傲慢さから来るものではなく、聖書に根ざした確信から生まれるものでした。」

2023 年 11 月、ネバダ州のカルバリー・チャペル・リノ・スパークスにて、チャーリーは若者たちに向けた最後のメッセージを、預言的な響きを込めて語りました。「君たちの国は偉大な国だが、今や崩壊の危機に瀕している。そして、この国を救えるかどうかは君たちにかかっている。しかし、君たちは神の命令と律法に従わなければならない。神を第一にしなければならない。そうでなければ、何の意味もないのだ。」

牧師たちの友人として
チャーリーは多くの牧師にとって友人であり、励ましを与える存在でした。そのため、各地のカルバリー・チャペルの集会で説教をしたり、質疑応答のセッションを行ったりするよう頻繁に招かれていました。彼はロブ・マッコイを「自分の牧師」と慕っていました。特にパンデミックの最中や、教会が閉鎖の危機に抗いながら活動を続けようとしていた時期には、ジョン・ランドール、ロブ・マッコイ、ケン・グレイブス、マイク・マクルーアといった牧師たちとグループチャットで連絡を取り合っていました。マイクは当時をこう振り返ります。「チャーリーは電話やメッセージで私を励ましてくれました。彼は誰に対してもそうでしたし、私のメッセージにも必ず返信をくれました。」

友人の死から 2 ヶ月後、マイクはカルバリー・チャペル・アソシエーションの国際会議の席で、本来ならその日、チャーリーが自分の代わりに登壇して語る予定だったことを明かしました。「彼にここへ来て話をしてほしいと頼んだのは、神が彼のミニストリーを通してどのような働きをされているかを知っていたからです。私は今、彼なら今日、皆さんに何と語りかけるだろうかと思いを巡らせています。彼は牧師という役割、説教壇、教会、そして皆さんの人生に対する神の召命を深く重んじていました。彼はそれらすべてに対して、謙虚な敬意を抱いていたのです。きっと、皆さんを大いに励ましてくれたことでしょう。」続いてマイクは牧師たちに対し、「戦いに身を投じ、取り組みのレベルを高め、さらなる領域を勝ち取る」よう強く促しました。「『神よ、今日私は何をすべきでしょうか？ あなたの計画は何ですか？』と問うのです。チャーリーは『主のために命を捧げる覚悟がある』と言い、主はその申し出を受け入れられました。彼は、世の備えをする洗礼者ヨハネのような存在だったと思います。人々はユダヤの荒野へ行く必要はありません。その代わりに、スマートフォンを手に取り、画面をスクロールして、そこで何度も繰り返し福音に触れているのですから」

さらに彼は、チャーリーが神の御心にかなうことを行いながら亡くなったという事実を、カンファレンスの参加者たちに改めて伝えました。「彼は『自由（Freedom）』という言葉を記したシャツを身にまとい、福音の良き知らせを宣べ伝えながら旅立ちました。あなた方も、そのような最期を迎えたいと思いませんか？」

（中略）

大きく、かつ効果的な扉
ロブ牧師は追悼式で最初の登壇者の一人として、人々の心を揺さぶる、誠実な福音の招きを語りました。数千人がそれに応答しました。後に彼はこう述べています。「チャーリーがあれほどの勇気を持てた理由の一つはこれです。彼を何で脅すというのでしょうか？天国へ行くことでしょうか？もし神様がチャーリーに『お前を天に連れて行く。お前の死によって 100 人がキリストのもとに来るだろう』と言われたとしたら、チャーリーは『わかりました！』と答えたことでしょう。これほど多くの人が救われるとは誰が想像したでしょうか。信じられないことです。」

マイキー・マッコイは、チャーリーが毎朝、仕事に向かう途中で聖書の一節をシェアしていたことを明かしました。「彼が最後に送ったのは、コリント人への手紙第一 16 章 8 節から 10 節でした。『しかし、五旬節まではエペソに滞在します。実り多い働きをもたらす門が私のために広く開かれていますが、反対者も大勢いるからです。テモテがそちらに行ったら、あなたがたのところで心配なく過ごせるようにしてあげてください。彼も私と同じように、主のみわざに励んでいるのです。」

Calvary Chapel Magazine Ω

＜お知らせ **Announcement**＞

★９月２１日（月）　ユース＆ユース＋のワンデイ・イベント　　★９月２７日　ディアコノス・ランチ

MGF はキリスト狂徒の集まるキリスト狂会

「教会〔マラナサ・グレイス・フェローシップ（略称：MGF）〕はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです」（エペソ１：２３）。「あなたがた〔MGF〕は、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」（コロサイ２：１０）。